古民家だより

No. 57
令和５年（2023 年）８月２５日（金）
越谷市教育委員会　生涯学習課

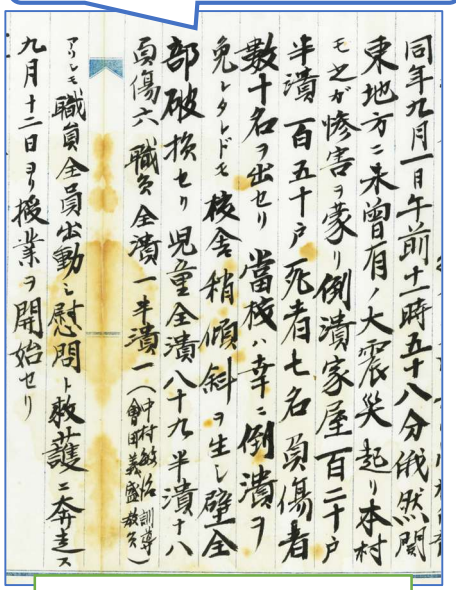
体温を超す気温の日が何日もあるこの頃です。最早「地球温暖化」ではなく「地球沸騰化」の状態だと、国連事務総長の言葉です。78 年前の「越ヶ谷国民学校　校務日誌」では、８月の気温で 30℃を超えた日は数日でした。

100 年前の大震災

間もなく関東大震災から 100 年を迎えます。このことに関して越谷市教育委員会では５月に「レイクタウン防災フェス 2023」にあわせ、旧東方村中村家住宅で展示を行いましたが、その一部をご紹介します。

学校も大きな被害

出羽村立出羽尋常高等小学校



（市立出羽小学校沿革誌より）

各学校には開校から現在までのことを記した「沿革誌」があります。その内の２校の記録をご紹介します。

大きな被害を受けて先生方が慰問と救護に奔走したり、東京からの避難児童を受け入れたりしたことが記されています。

市域の寺社建築も損害を受けました。出羽村北部、元荒川近くの迎摂院（こうしょういん）の本堂など、いくつかが倒壊しました。

大相模村立大相模尋常高等小学校

学校現場のドキュメント【現代語要約】

（市立大相模小学校沿革誌より）

9.1　【*震災当日*】
始業式だが朝からの豪雨で出席少ない。午前 11 時 52 分、突如大地震、上下激動、足の踏む所を知らず。漸く校庭に出たら校舎が 38 度の傾斜。ガラスや壁が崩れる音が物凄い。

9.2　15 日まで臨時休業。

9.6　震災善後策のため郡校長会。

9.16　本日より仮教場（大聖寺、観音寺、金剛寺）で授業開始。

9.25　校舎応急修理（傾斜を起こし屋根葺き替え）により、全児童仮教場から移り、完全に授業開始。

9.30　本日までに収容した東京からの避難児童は 31 人。

10.3　県視学が震災後の状況視察に来校。

10.4　郡長が震災後の状況視察に来校。

11.6　修理完了。工費 1000 円也。

11.28　救恤（救済）品配給された。雑記帳 75 冊、半紙 45 帖、毛筆 30、鉛筆 40 ダース、慰問袋大 4、その他

1.31　第二次救恤品配給。教科書 56、雑記帳 889、掛図 10、地図３幅、謄写版、オルガン、解剖器具、裁縫用具、虫眼鏡 10、小黒板 10、その他

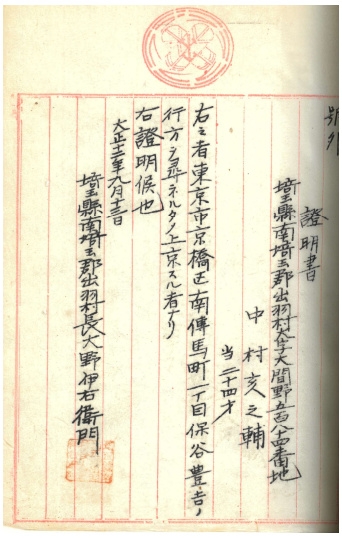
6.18　救恤金 196 円７銭が村に送金された。

6.21　救恤金を罹災児童と収容児童の保護者に渡す。

市域全体の状況

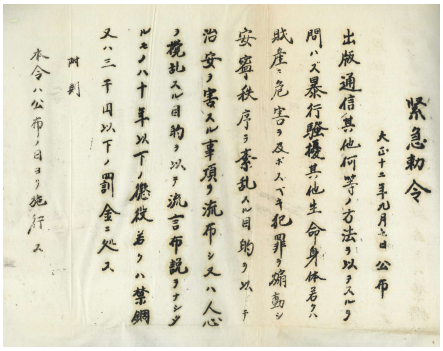
町村	即死	負傷	全壊	半壊
桜井	0	0	68	35
新方	0	0	13	14
増林	0	4	36	37
大袋	1	2	44	22
荻島	0	3	33	15
出羽	7	24	151	41
蒲生	5	4	14	9
大相模	5	25	61	15
川柳	1	4	21	3
越ヶ谷	0	0	18	59
大沢	0	0	20	4
計	19	66	479	254

（『越谷市史　五』より）

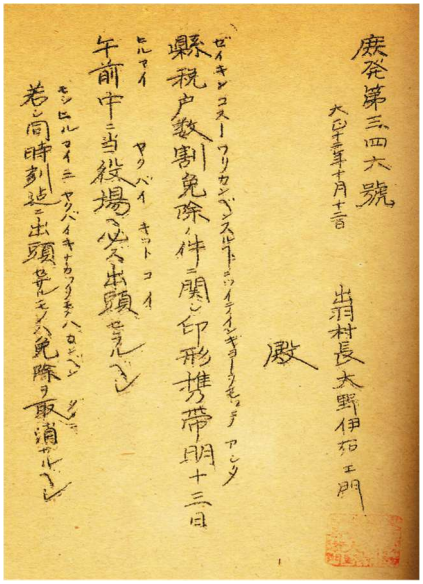


戒厳令の発布

一時的に法律を停止して、人々の行動を軍隊が統制する戒厳令が出されました。そのために、越ヶ谷から東京に行く際には左の証明書が必要でした。混乱の中での犯罪やデマを防止するために、下の「緊急勅令」も出されました。



復興に向かって



各町村から郡（県）には税金の免除が要請され、郡や税務署からは被害状況や資産状況の照会状が届きました。出羽村では税免除を求める署名と嘆願書が出されましたが、左の史料はその際に希望者は出頭して署名や申請をするように通達した文書です。文言の右側にある小さなカタカナ文は地域の言葉に直して分かりやすくしたもので、以下のように書かれています。被災した人への役場の人の細やかな心遣いが表れています。

戸数割の税金を勘弁（免除のこと）することについて、印形（いんぎょう＝印鑑）持って、あした昼前、役場にきっと来い。もし昼前に役場に来（き）なかったら勘弁（免除）はダメだ。

この他にも各戸に雨よけのトタン板を郡に要請するなど、町や村の人々は様々な方法で自ら復興しようとしました。

当時の教科書や写真、日誌や日記も展示します。

市内小学校開校 150 周年記念展示「越谷から見た近代教育」

『第2部　終戦前後の学校』

＊会期：令和５年（2023 年）8 月 22 日（火）～9 月 12 日（火）

（休館日＝8 月 28、31 日、9 月 4、11 日）

＊場所：越谷市立図書館　1 階　展示室

＊概要：昭和前期の概要、戦時中の学校と子どもたち、終戦、占領と学校、再生への取り組み

お待ちしています！